

科目番号：1

分野	基礎分野				
科目名(必修)	哲学				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		

#### テキスト

なし

#### 目的

看護は人間関係を基盤としており、また人の生死に関わるものである。常に「人とは」「看護とは」と自分の考えを追求していくための哲学的思考を学ぶ。

#### 目標

1. 人の存在、人はいかに生きるべきかという問いを根底にもちながら、ものの本質、真実性の知を愛し求めていくことにより、自身のあり方を考える姿勢を身につける。
2. 価値観・人生観・死生観・看護観を追及する思考を習慣化できる。

#### 授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	「哲学する」とはどのようなことか	講義
2	物の本質について考察する(ソクラテスの思想を解説)	講義
3	「知る」とはどのようなことか(プラトンの思考を解説)	講義
4	「わたし」「人間」とはなにか(プラトン哲学をモデルとして考察)	講義
5	行為における真とは何かについて(アリストテレス哲学をモデルとして考察)	講義
6	先入観と日常について	講義
7	健康と障がいについて	講義
8	幸せについて(エピクロスの思想を中心に)	講義
9	自由について(ストア派の思想を中心に)	講義
10	生命倫理の諸問題-脳死と臓器移植、クローン、人工妊娠中絶、多胎妊娠	講義
11	精神と身体-西洋的なものの見方と東洋的なものの見方の差異について	講義
12	行為における「正しさ」について	講義
13	功利主義について(1)	講義
14	功利主義について(2)(快楽計算について考察)	講義
15	イデオロギーについて	講義

#### 評価方法・評価基準

レポート及び出席、授業参加度を総合的に評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。

#### その他

科目番号：2

分野	基礎分野				
科目名(必修)	文章表現法				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

日本語表現＆コミュニケーション～社会を生きるための21ワーク～(実教出版)

目的

看護の質の維持向上において、自己の考えを論理的に文章化する能力は非常に重要である。読むこと、書くことの基本的な技術を学ぶ。そして、論理的な思考の上に成り立つ文章構成能力を養う。

目標

1. 具体的・実践的な文章作成について学び、論理的かつ正確な文章を書くことができる。
2. 言語を正しく理解し使用することが、他者との人間関係の構築に不可欠であることを理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	日本語の特徴	講義
2	句読点の働きを知る	講義
3	漢語、和語、カタカナ語の使い分け	講義
4	語彙について	講義
5	適切な表現について	講義
6	文の係り受けについて	講義
7	文の推敲	講義
8	慣用的表現の方法	講義
9	文章のレトリック	講義
10	話し言葉と書き言葉	講義
11	効果的な書き言葉	講義
12	文の長さについて	講義
13	客観的な文章表現について	講義
14	描写の方法 アカデミック・ライティング	講義
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする

その他

科目番号：3

分野	基礎分野				
科目名(必修)	情報				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	7回	開講時期	前期		

テキスト

なし

目的

情報および情報技術を活用するための知識と技術を習得し、基礎的情報活用の実践力を養う。情報技術を活用した表現力、発信力等を養う。

目標

- Word、Excel、PowerPointの操作ができる。
- インターネットを活用し、必要な情報を得ることができる。
- 情報の取り扱い方や統計学的処理方法の基礎を理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	パソコン・インターネットの基礎知識(情報の取り扱い)	講義
2	Word・Excel演習 基礎	演習
3	Word・Excel演習 基礎	演習
4	Word・Excel演習 応用	演習
5	Word・Excel演習 応用	演習
6	プレゼンテーション(パワーポイント)演習	演習
7	プレゼンテーション(パワーポイント)演習	演習
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

課題に対するパソコンを使用した実技試験を100%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：4

分野	基礎分野				
科目名(必修)	情報通信技術と医療				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	1年次	担当講師	看護師
講義回数	7回	開講時期	前期		

#### テキスト

系統看護学講座 別巻 看護情報学(医学書院)

#### 目的

情報管理の重要性と医療・看護へのICT活用について学び、情報管理における倫理観を養う。

#### 目標

1. 医療における情報システムの基礎的知識を理解する。
2. 看護における情報システムの基礎的知識を理解する。
3. 医療倫理、情報倫理について学び、医療従事者としての情報管理のための基礎的知識を習得する。

#### 授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	医療における情報システム(歴史・構成・仕組み)	講義
2	看護における情報システム(看護システム)	講義
3	医療倫理と情報倫理、個人情報保護、情報開示	講義
4	電子カルテ操作の実際	講義
5	地域と医療ネットワーク	演習
6	健康管理支援におけるICTの活用	演習
7	健康管理支援におけるICTの活用の発表	講義・演習
8	レポート作成	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

#### 評価方法・評価基準

レポート及び出席、授業参加度を総合的に評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。

#### その他

情報管理における意識を高めながら、周囲の情報を常に吟味する力を高めていきましょう。

科目番号：5

分野	基礎分野				
科目名(必修)	看護物理学				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	7回	開講時期	前期		

テキスト

看護学生のための物理学(医学書院)

目的

看護学に関連する物理学的事象への関心を深め、看護技術の原理原則を理解するための基礎的能力を養う。

目標

1. 看護活動に応用するための物理学の知識を理解する。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	力のモーメントとてこの原理	講義
2	看護におけるボディメカニクス	講義
3	圧力とは何か、血圧	講義
4	酸素ボンベの仕組み	講義
5	点滴の仕組み	講義
6	低圧持続吸引の仕組み	講義
7	光と音、紫外線・赤外線・超音波	講義
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

看護実践につながる知識である。物理学で学んだ知識を積極的に活用していきましょう。看護師国家試験に出題される計算問題に取り組んでみましょう。

科目番号：6

分野	基礎分野				
科目名(必修)	心理学				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					臨床心理士
講義回数	7回	開講時期	前期		

テキスト

なし

目的

医療・看護の場で人との関わりを持つ際には、人の心や行動について理解することが求められる。本講義は、心理学の知見を学ぶことを通して、人の心と行動、および自分自身の心についての理解を深める事を目的とする。

目標

1. 医療・看護の対象である人間の心について理解を深める。
2. 心の仕組みとはたらき、心の発達、心の適応に関する心理学の基礎的な知見を理解する。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	知覚と感覚に関する心理学	講義
2	記憶の心理学	講義
3	学習の心理学	講義
4	発達の心理学	講義
5	人格の心理学	講義
6	適応の心理学	講義
7	医療と心理学	講義
8	レポート作成	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

レポート及び出席、授業参加度を総合的に評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：7

分野	基礎分野				
科目名(必修)	人間関係論				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					臨床心理士
講義回数	15回	開講時期	後期		

テキスト

なし

目的

看護は人間関係を基盤とする。看護のみならず日常の人間関係において、この科目で学んだ内容が活かせることをねらいとする。

目標

1. 自分の存在が他者の存在と無関係に成り立つものでないことを理解できる。
2. 人間関係の基礎や看護における人間関係について理解できる。
3. 看護者としてのカウンセリングの意義、役割について学ぶ。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	イントロダクション 人間関係論とは(人間存在と人間関係)	講義
2	ストレスとストレスマネジメント	講義・演習
3	質問をする、親密になりやすい要因	講義・演習
4	ストレスと心の働き	講義・演習
5	心の働き ものの見え方	講義・演習
6	自己と他者の理解の枠組み 偏見 現代における人間関係の変化	講義・演習
7	自己と他者の理解の枠組み 意識 自我の防衛機制	講義・演習
8	自己と他者の理解の枠組み 意識のつづき(フロイト、マズロー)	講義・演習
9	“欲求”の理解 状況の持つ力(パフォーマンス促進の条件)	講義・演習
10	集団の中での意思決定	講義・演習
11	ポジティブ心理学	講義・演習
12	カウンセリング	講義・演習
13	アサーティブコミュニケーション	講義・演習
14	鬪病生活を支える人間関係	講義・演習
15	鬪病生活を支える人間関係	講義

評価方法・評価基準

レポート及び出席、授業参加度を総合的に評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：8

分野	基礎分野								
科目名(必修)	教育学								
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験				
講義回数	15回	開講時期	前期						
テキスト	なし								
目的	人間にとっての教育の意義を理解し、看護の専門職者として日々学び続けることの重要性を認識できるようにする。また、教育学習心理や一般的な教育方法を学ぶことで看護における指導技術の素地を養う。								
目標	<ol style="list-style-type: none"><li>教育の原理が理解できる。</li><li>人間形成における教育の意義や、看護の中で果たすべき教育の役割・機能について理解できる。</li><li>学習心理を踏まえた教育方法を理解し、効果的な指導技術の基礎的知識を身に付けられる。</li></ol>								
授業計画・授業内容									
回	授業内容				授業方法				
1	教育の意義 1)教育とはなにか 2)学ぶとはなにか 3)教育活動の本質				講義				
2	教育の基本構造 1)教え・学ぶ関係 2)教育による発達教育の基本構造				講義				
3	動機付けに関する諸理論、知識の獲得過程				講義				
4	教育を受ける対象の理解 1)遊びの場 2)子ども観と発達				講義				
5	教育を受ける対象の理解 1)ペタゴジー 2)アンドラゴジー				講義				
6	教育方法 1)教育方法の歴史と原理				講義				
7	教育方法 1)教授・学習の形態と方法・技術 2)個人と集団				講義				
8	教材とは				講義				
9	教育の目標と評価				講義				
10	現代教育の社会的課題 1)発達に関わる諸問題 2)児童虐待				講義				
11	学校教育と生涯教育 1)生涯学習の必要性 2)成人教育				講義				
12	教育制度概説(看護師による教育を含む)				講義				
13	今日の教育(リカレント教育、ヴァウチャーを含む)				講義				
14	反省的実践家とは				講義				
15	レポート作成・まとめ				講義				
評価方法・評価基準									
レポート及び出席、授業参加度の総合的な評価を20%、筆記試験を80%とし、100点中60点以上を合格とする。									

科目番号：9

分野	基礎分野				
科目名(必修)	社会学				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		

#### テキスト

井口高志・石川ひろの・佐々木洋子・戸ヶ里泰典 社会学 第7版 系統看護学講座基礎分野 (医学書院)

#### 目的

社会に起こっている事象に対し興味・関心を抱き、様々な角度から考えられるようになることを目的とします。

#### 目標

- 人間の社会構造や、社会的な人間行動、家族の機能・構造、高齢化という現象を統合的に分析し理解する姿勢を養うことができる。
- 人間と社会との相互関係を理解し、起こっている現象をありのままに見つめる社会的な視点を身につけることができる。

#### 授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	健康・病気をみるツールとしての社会学(序章)／社会学の諸領域と保健医療(3章)	講義
2	健康・病気の見方・とらえ方(5章)	講義
3	現代社会とストレス(6章)	講義
4	働き方・働きかせ方と健康・病気(8章)	講義
5	健康行動・病気行動と病経験(9章)	講義
6	健康・病気の社会格差(7章)	講義
7	患者-医療者関係とコミュニケーション(10章)	講義
8	地域社会と保健医療(13章)	講義
9	保険医療福祉専門職とアクリー(11章)	講義
10	性・ジェンダー・家族と保健医療(12章)	講義
11	社会学的基礎概念(1章)	講義
12	保険医療福祉システムと現代的变化(14章)	講義
13	ケアの社会学(15章)	講義
14	社会学的視点からのモノの見方(2章)	講義
15	試験・まとめ	講義

#### 評価方法・評価基準

毎回の小テスト60点、期末テストを40点として、合計100点満点で評価します。100点中60点以上を合格とします。

#### その他

毎回の小テストは、教科書の最後の部分から出題します。初回授業で試しにやってみて解説しますので、授業までに該当する章(序章・3章・5章)を読み、質問があればメモしておいてください。なお、授業および小テストは教科書の順番とはズレていますので、スケジュールを確認して間違えないようにしてください。

科目番号: 10

分野	基礎分野				
科目名(必修)	生物学				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座 基礎分野 生物学(医学書院)

目的

生物界には進化によって誕生した多様な生物種が存在し、ヒトを含めてその基本的構造や機能には共通点があり、一部の生物はヒトの病気の原因となる。この授業では生物の細胞の基本的構造と機能で学び、生命の仕組みを理解する。

目標

1. 細胞の基本構造とその集合体である個体の構造と機能を理解する。
2. 遺伝子の機能と遺伝の仕組み、生命の進化とその意味について理解する。
3. 受精卵が細胞分裂により個体を形成する発生過程を理解する。
4. 個体内部の恒常性構造と調節、刺激の情報伝達の仕組みを理解する。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	生物学で何を学ぶか	講義
2	細胞の構造と機能 細胞膜	講義
3	細胞の構造と機能 細胞 器官、半透膜	講義
4	生体維持のエネルギー	講義
5	細胞分裂: 体細胞分裂と減数分裂	講義
6	遺伝: 遺伝の法則と染色体	講義
7	ケツムと遺伝子	講義
8	遺伝子の変異と遺伝子操作	講義
9	発生と分化	講義
10	個体の調節(ホメオスタシスと各種臓器)	講義
11	個体の調節(循環器・泌尿器系)	講義
12	個体の調節(感覚器)	講義
13	個体の調節(免疫系)	講義
14	地球環境の変化・生物生態系の変化	講義
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

小テスト10%、課題評価10%、筆記試験80%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号: 11

分野	基礎分野				
科目名(必修)	基礎看護英語				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
講義回数	7回	開講時期	後期		

テキスト

山田千夏 他著 現場ですぐに役立つ! 実践メディカル英会話(メディカ出版)

目的

社会や看護の国際化に対応するための基本的な英語力を、具体的な看護場面を通して身につける。

目標

- 看護英会話に必要な専門用語や表現を理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	総合案内で使える英会話	講義
2	現病歴聴取のための英会話	講義
3	健康歴聴取のための英会話	講義
4	診察室で使える英会話	講義
5	検査で使える英会話	講義
6	手続きで使える英会話	講義
7	薬の説明、投薬時に使える英会話	講義
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

筆記試験を100%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号: 12

分野	基礎分野				
科目名(必修)	応用看護英語				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		

#### テキスト

Speaking of Nursing (南雲堂)

#### 目的

専門領域の医学、看護の外国文献を読むことで、海外の医療情勢にも興味をもち諸外国における文化的背景の違いを知る。また、看護のあらゆる状況に応じた会話の実際を学び、国際化する医療に積極的に参画できる力を養う。

#### 目標

- 対象の主訴や症状を尋ねるための看護英語を習得できる。
- 海外の医療情勢に興味を持ち諸外国における文化的背景の違いに興味を寄せることができる。

#### 授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	Chapter1 Welcome a Patients	講義
2	Chapter2 Taking Vital Signs	講義
3	Chapter3 Pain Assessment	講義
4	Chapter4 Feeling So Sick!	講義
5	Chapter5 Transferring a Patient	講義
6	Chapter6 Medical Departments	講義
7	Chapter7 Review & Medical Terminology	講義
8	Chapter8 Personal Care	講義
9	Chapter9 Giving Medication to a Patient	講義
10	Chapter10 Elimination	講義
11	Chapter11 Chronic Diseases	講義
12	Chapter12 Critical Care/Operation Room	講義
13	Chapter13 Pregnancy Check-up	講義
14	Chapter14 Review & Medical Reading	講義
15	試験・まとめ	講義

#### 評価方法・評価基準

筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。

#### その他

科目番号: 13

分野	基礎分野				
科目名(必修)	運動と健康				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	8回	開講時期	前期		

テキスト

なし

目的

運動と健康の関連を理解し、スポーツを通して自己の健康へ目を向けることができ、健康の維持増進を図る。また、協調性を養い、心身の安定を目指す。

目標

1. 運動と健康について考え、健康への意識を高めることができる。
2. 自身の基礎体力や心身の健康状態を知る。
3. スポーツを通して仲間との協力を図り、集団で規律のある行動がとれる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	ガイダンス(健康チェック、ストレッチング、ウォーミングアップ)、健康の定義	講義・演習
2	健康と運動(運動が健康に与える効果)、体力テスト	講義・演習
3	運動理論(発達段階と運動)	講義・演習
4	ウォーキング	演習
5	マラソン	演習
6	マラソン	演習
7	レクリエーションの意義と進め方	講義・演習
8	自己健康チェック	講義
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

出席状況、授業参加状況の総合的に評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：14

分野	基礎分野								
科目名(必修)	音楽								
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験				
講義回数	15回	開講時期	前期						
テキスト	なし								
目的	音楽(芸術)が人の生活や心身に与える影響を考え、音楽を通して豊かな感性、協調性を養う。また、音楽を通じて「ケアすること」を考える機会とする。								
目標	1. 実習でレクリエーション活動、学校行事等で音楽を活用できる。 2. 内省をすることで自己の特性を理解し、感性を養う。								
授業計画・授業内容									
回	授業内容				授業方法				
1	音楽とは				講義				
2	校歌「愛の灯」、信仰(音取り、歌詞説明)				講義・演習				
3	パート解説 1)アルト 2)メッツソプラノ 3)ソプラノ				演習				
4	唱歌				演習				
5	唱歌				演習				
6	唱歌				演習				
7	唱歌				演習				
8	唱歌				演習				
9	唱歌				演習				
10	唱歌				演習				
11	唱歌				演習				
12	ハンドベル				演習				
13	音楽の三要素				演習				
14	戴帽式 唱歌練習				演習				
15	歌唱・まとめ				講義・演習				
評価方法・評価基準									
レポートや授業参加状況を総合的に評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。									
その他									
1回の演習・講義を1時間とし、計15回とする。									